



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース 創刊号



4月6日、オープン!

平成20年4月6日、大森ふるさとの浜辺公園内に「大森 海苔のふるさと館」がオープンしました。午前10時から松原区長とご来賓の挨拶などの式典がおこなわれ、テープカットの後、一般公開となりました。大森甚句やみはら太鼓、おはやしの音が響くなか一日中人の流れが途絶えることなく、約6,500名もの来館者がありました。

大森周辺の海では江戸時代から海苔づくりが盛んに行われ、東京湾の埋め立てで生産を終了した昭和30年代まで全国有数の生産地でした。今回のオープンにより、現存する最後の海苔船や国の重要有形民俗文化財に指定されている生産用具約100点が大森の海を望む好立地の場所に展示されることになりました。

当日はこれら展示に加え、元海苔生産者に教わ

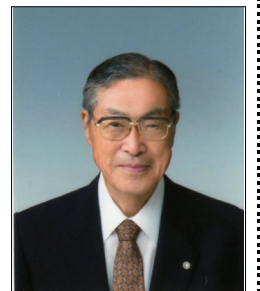
りながらの海苔簀編み体験コーナーもありました。さらに、館の前にふるさとの浜辺で育てたアサクサノリの網が設置され、網から海苔を取る「海苔つみ」をしたり、大森本場乾海苔問屋協同組合主催の「のり祭り」ではジャンボのりまきづくりや海苔の食べくらべをして、皆さん楽しんでいました。

海苔に関する文化施設は全国でも珍しく、懐かしい道具類の展示に加えて、海苔づくりの歴史や生態をわかりやすく学べるよう工夫されたコーナーもあり、子供から大人まで楽しく海苔について学ぶことができます。また、毎月一回、海苔つけや海苔簀編み、浜辺の生き物講座などさまざまな体験講座も行う予定です。(文)

## 「特定非営利活動法人 海苔のふるさと会」のごあいさつ

区及び地域皆様のご尽力により「大森 海苔のふるさと館」が開設されました。本場大森海苔の名を誇った地場産業の諸道具・資料が保存展示されることは、先人たちがいかに喜ばれているかが私には肌感じてわかるのであります。

この海苔の歴史や浜辺の自然と文化を後世に伝え、地域の愛着を育む為、特定非営利活動 (NPO) 法人「海苔のふるさと会」を設立しました。至らぬ者ですが、理事長を務めさせていただきます。今後ふるさと館を中心に様々な活動を予定しております。また事業の充実を計る為、会報を発行することになりました。是非ご愛顧いただいて良きアイデアなどお寄せいただきますようお願いいたします。



理事長  
平林 義正



# フロアガイド よみがえる海苔のまち大森



3F 展望コーナー

2F 海苔の道具  
触れるコーナー

1F 海苔の町再現展示  
ライブラリー

当館は、1・2階が展示室、3階が展望コーナーです。

展示を見るだけでなく、触ったり動かしたりして体験したり、海苔や自然に関する情報を調べたり、公園を眺めながら休憩したり、さまざまな楽しみ方ができる施設です。

入口に足を踏み入れると、全長13メートルの海苔船が皆さんを出迎えてくれます。大田区に現存する最後の海苔船です。

また、昭和30年ころの海苔つけ小屋が再現され、海苔の町として活気があったころの大森に、皆さんをいざなってくれます。

2階には、国の重要有形民俗文化財に指定されている、海苔養殖の道具が展示されています。海

苔生産者の苦勞が伝わってくる、貴重な歴史の証人たちです。映像や実際に触ったり動かしたりできるコーナーもありますので、子どもたちにも楽しんでいただけます。期間を定めて、さまざまなテーマの展示をするコーナーもあります。3階は展望コーナーで、公園の緑と浜辺を一望することができます。飲食も可能ですので、お弁当持参で遊びに来てください。

その他にも、パソコンで海苔の情報を調べたり、ビデオを見たりすることもできるライブラリーや、アサクサノリの成長を観察できる水槽などもあります。

ふるさとの浜辺公園の情報もありますので、当館を見学した後は、浜辺で生き物観察を楽しんでみませんか。(麻)

## ■利用案内■

**入館料** 無料  
**開館時間** 午前9時～午後5時  
 (6月～8月は午後7時まで)  
**休館日** 第3日曜日、年末年始  
 (12月29日～1月3日)

## 「シンボルマーク決定！」

館のシンボルマークが、都立六郷工科高等学校3年大石洋平さんの作品に決定いたしました。ベカブネとおにぎりをイメージしたそうです。すてきなデザインありがとうございました。



## コラム

開館してから大勢のお客様に来ていただき大変うれしく思っています。流れている大森の昔の映像と海苔船を前に「海苔屋だったんだよ。なつかしいな」と声をかけてくださる方。「ブリキ職人で(海苔の)乾燥小屋の煙突を作っていたよ。」「(海苔の)乾燥のタドンを商っていた。」「船大工でした。」いろいろな方が携わっていたことがわかります。ぜひみなさん昔話聞かせてください。スタッフ一同おまちしています。(信田)

## 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」創刊号

平成20年6月22日発行  
 編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
 連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号  
 TEL 03-5471-0333  
 FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース 2号

体験学習会

## 海苔つけ体験

4月20日(日)、5月5日(月・祝)に、「海苔つけ体験」を開催しました。各50名の参加者を募集したところ、大勢の方々にご応募いただきました。

当日は、大森の元生産者の方にご指導いただきました。はじめに大森の海苔養殖のお話をした後、元生産者の方々から本物の道具を使いながら海苔づくりのお話を聞きました。寒い冬の作業の苦労話などを交えたお話に、参加者もうなずきながら耳を傾けていました。

次に元生産者の方による海苔つけの実演です。45年のブランクがあるとは思えないほどの、見事な手さばきでした。

そして、いよいよ参加者の海苔つけです。思い切りのいい小学生や、失敗して再チャレンジする人、お互いに写真を撮り合う家族など、思い思いに楽しんでいました。



海苔簀すにつけた海苔は、乾し枠に付けて外に乾しました。幸い良い天気にも恵まれ、海苔も気持ちよさそうでした。

今の大森は海の存在が遠くなってしまいましたが、海苔の手触りや匂いを確かめ、海苔の町大森を五感で感じ取っていただけたことと思います。

海苔つけ体験は人気が高く、多くの問い合わせをいただいております。海苔の収穫時期は11月から3月なので、次回は11月に開催します。詳細は、大田区報に掲載しますので、ぜひ、お子さんも大人も揃ってご参加ください。(麻)

## 今後の催し物

### ふるはま生き物探検隊

#### 「ボラから見る東京湾」

ボラの生態を通して、東京の海の環境を探るシリーズです。今回は、東京海洋大学の学生たちと一緒にクイズで学んだり、実際に浜辺でボラなどの生き物の観察をしたりします。

日時 6月22日(日)  
9:30~12:30

対象 小学3年生~中学生

参加費 100円

定員 20名

申込み 窓口または電話で受け付け。

#### ペーパークラフト

#### 「ベカブネづくり」

海苔採りに使ったベカブネのペーパークラフトを作ってみましょう。本物の舟の構造がよくわかります。

日時 7月30日(水)  
13:00~16:00

対象 小学4年生以上

参加費 200円

定員 30名(先着順)

持ち物 ハサミ

申込み 7月11日(金)8:30から窓口または電話で受け付け。

### ふるはま生き物探検隊

#### 「ボラから見るふるさとの浜辺」

ふるさとの浜辺でもよくジャンプしているのを見かけるボラ。探検隊第2弾では、今回も東京海洋大学の学生たちと一緒に、ボラの生態を更に学んでいきます。

日時 8月24日(日)  
9:30~12:30

対象 小学3年生~中学生

参加費 100円

定員 20名

申込み 7月11日(金)8:30から窓口または電話で受け付け。

# 祝 入館者数一万人！



4月6日のオープン以来、たくさんの方々にご利用いただいています。元生産者や地域の方、家族連れでいらっしゃる方もいます。

4月22日、早くも入館者数一万人を突破。見事一万人目に輝いたのは高齢者施設の「はせさんず」さん。記念撮影をして、記念品をお渡ししました。

また、高齢者施設や小学校など団体での利用も多く、5月だけで45団体・878人の方がいらっしゃいました。

4月・5月の入館者数累計は21,919人でした。これからも皆さんのご来館をスタッフ一同、心からお待ちしております。（りょう）

## NPO会員募集のご案内

### 特定非営利活動法人

### 「海苔のふるさと会」

#### 会員募集のご案内

海苔の歴史、浜辺の文化を次世代に伝えよう！大田区の伝統的な地場産業であった海苔養殖。このたび大森ふるさとの浜辺公園内に「大森海苔のふるさと館」が開館するにあたり、海苔の歴史や浜辺の自然、文化をこどもたちに伝え、先人や地域への愛情を育むことを目的に「特定非営利活動法人 海苔のふるさと会」を設立いたしました。

当会では、「大森 海苔のふるさと館」を中心にボランティア活動や海苔つけ体験指導など、さまざまな活動を予定しています。

ぜひ、当会の活動をご理解いただき、ご入会いただきますよう、お誘い申し上げます。

#### 夏期の開館時間延長

# お知らせ

6月から8月は、午後7時まで開館時間を延長しています。仕事帰り、あるいは磯遊びの後など、涼しくなってからもご利用いただけます。

#### ＊ コラム

湿気た焼き海苔を、簡単に佃煮にする方法をご紹介します。器に海苔を細かくちぎって入れ、水をかぶるくらいに入れます。そこに酒と醤油合わせて水の半分位の量（味は好み）をいれます。2～3時間ふやかします。レンジでラップなしで1分、ラップをかけて3～5分で出来上がりです。干しシイタケをいれても美味しくいただけます。（渡辺）

#### 会費について

##### ■個人

	入会金	年会費
正会員	2,000円	3,000円
賛助会員	1,000円	1口1,000円

##### ■団体

	入会金	年会費
正会員	5,000円	5,000円
賛助会員	2,000円	1口3,000円

賛助会員は、一口以上お願いします。また、正会員は会の議決権があります。

#### お申し込み・問い合わせ

大森 海苔のふるさと館

TEL 03-5471-0333 FAX 03-5471-0347

シンボルマーク  
応募作品展

#### 会場：2階展示室

6月20日～7月2日  
大森第一小学校4年のみなさん

7月4日～7月16日  
大森第四小学校4年のみなさん

7月18日～7月30日  
都立六郷工科高校3年の  
みなさん

#### 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」2号

平成20年6月28日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号  
TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報



# 大森 海苔のふるさと館 ニュース 3号



## 海苔作りの夏と秋

文化を伝承する協力者の方々

# のりす 海苔簀編み

準備中!

大森周辺での海苔づくりは昭和38年春に終了しました。それから50年近くたとうとしていますが、ふるさと館の周りには海苔づくりをしていた人たちがまだまだたくさん住んでいます。皆さんが当時行っていた作業の一つ一つが今や貴重な経験であり、技術です。当館では地域に残る海苔づくりの技術や文化を後世に残していきたいと考え、有志の方たちと一緒に当時の作業を行う活動を始めました。（文）

協力者の方々とヨシ刈り



6月21日の午前、協力者の方3名と一緒に都立東京港野鳥公園に海苔簀作りに使うヨシを刈りに行きました。干潟の中に生えているため、泥だらけになりながらの作業です。日差しが強く暑い中、昔から愛用している鎌を手に持ち、ヨシ刈りの作業をしました。

館に持ち帰った後、長さごとに分けながら使えないヨシを取り除きます。樽の中にヨシを入れ、葉っぱを掴みながら引き抜くことで同じ長さのヨシをまとめることができます。午後も気温が高く暑い中、8名もの協力者の方に手伝っていただきました。（りょう）

今、体験学習室はヨシの香ばしい香りがします。ヨシをカットし、束ねる作業をしながら色々

ヨシの揃え方を教わりました



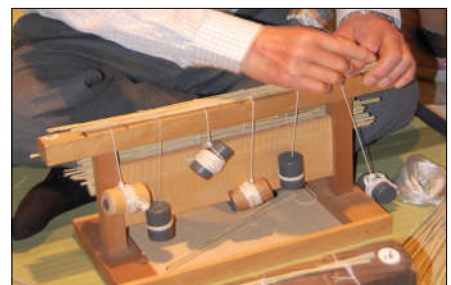
なことを教わりました。その内の一つが、津島神社の茅の輪はヨシで作っているということです。当日はあいにくの雨でしたが、輪の中を8の字を描いてくぐり無病息災をお願いしてきました。（渡辺）

作業の合間に、昔のお弁当の話を教えてもらいました。「むかし、おじいちゃんが※はまどだった時のお弁当はな、普通のご飯で作った太い海苔巻きにきまっていたんだよ。中身はかつをぶしにきまっていたな。」

巻簀の上に海苔を置き、両手いっぱいのご飯を広げてしょう油をまぶしたかつをぶしを芯にくるっとまいて出来上がり。簀に巻いたまま持ち運べば形も崩れずラップいらず。何より素朴なおいしさ。夏の昼食に試してみてください。（幸）

※はまど…浜で仕事をする人

腕前  
海苔簀編み、  
熟練



ヨシ刈りの後、押し切りで長さを揃えて切り、外で干しました。協力者の方々は、朝昼夕と何度も足を運んで均等に干し上がるように作業をしました。干し具合や適したヨシ、必要な材料など、協力者の方々は地域の海苔の先生です。この作業は今後も続き、秋に海苔簀編み体験を行います。ぜひ、皆様も昔の海苔づくりのお話を聞きに来てください。（麻）

海苔簀編み体験

①9月28日(日) 区報8月21日号掲載

②10月12日(日) 区報9月11日号掲載

いずれも

時間: 10:00~16:00

定員: 先着20人

申込方法: 電話または窓口にて申込

### 企画展コーナー 「明日につな げたい自然 と小さな生 命の育み」

展示期間 8月1日～9月17日  
子どもと自然をつなぐ活動をして  
いる、通称「原っぱの会」の活  
動を紹介しています。



## 募集中

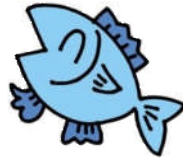
前回と同じくボラをテーマに行い  
ます。内容は前回と異  
なるので、前回参加した  
人でも今回初めての人でも楽しめます！  
夏休みの自由研究にいかがでしょうか。

時間 9時30分～12時30分  
対象 小学3年生～中学生  
費用 100円

第2回 ふるは  
ま生き物探検隊  
「ボラからみる  
ふるさとの浜辺」  
8月24日(日)



## ふるはま 生き物 探検隊



毎月1回行っている催  
し物のなかには、館の  
近くにあるふるさとの  
浜辺を生かした「ふる

はま生き物探検隊」という体験型の講座があります。  
当館は海苔についての資料館ですが、浜辺の自然  
に親しんだり、海苔づくりを可能にしていた海の仕  
組みを学んでほしいとの考えから東京海洋大学、佐々  
木剛先生の研究室と協力しながら  
行っています。(文)

第1回 ふる  
はま生き物探検隊  
「ボラから見る  
東京湾」6月22日  
(日)

## 報告

前半は  
東京海洋大学4年生北見君  
が作成した「ボラブック」  
を教材に講座室で学習しました。  
ボラの生態や人間の生活と海の関係がマンガで  
わかりやすく書かれていて、参加者は興味深く  
取り組んでいました。

後半はふるさとの浜辺へ移動して、ボラを中  
心とした生き物を観察しました。参加者はボラ  
のジャンプや投網で捕った魚を観察したり、石  
に隠れているカニを捕まえたり浜辺の自然を満  
喫しました。



## ペーパークラフト ベカブネ作り

7月30日(水)、紙でベカブネを作る催しを行  
いました。このペーパークラフトはオリジナル  
で、舟の構造などもよくわかります。

展示室で本物のベカブネを見ながらお話を聞  
いた後、作り方の説明に従って順番に作りまし  
た。約2時間かけて、小学4年生から大人まで全  
員が完成させることができました。

なお、このペーパークラフトは、舟と飛行機  
の5枚セット200円で、窓口で販売しています。

## ✿ コラム

4月6日オープン以来、来館者数が順調に推移している。開館1ヶ月目  
の5月6日には20,000人を突破。  
公的施設にしては過去、あまり例のないケースではないだろうか。こ  
のニューズレターが発行される頃には30,000人を突破していると思わ  
れる。  
これも一重に地域の皆様の尽力あってのこと。事務局として喜びに堪  
えないことであり、あらためて関係者の皆様に感謝申し上げる次第で  
す。(宮川)

### 特定非営利活動法人 海苔の ふるさと会会報「大森海苔の ふるさと館 ニュース」3号

平成20年8月4日発行  
編集・発行 特定非営利活動  
法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区平和の  
森公園2番2号  
TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース 4号

東京海洋大学の学生と行く！

## 「海苔のまちを伝える」 10月25日・11月22日

全国にその歴史を誇る海苔のふるさと「大森」。そのまちの記憶をどう次世代に伝えていくか。9月からそのようなテーマのもと東京海洋大学と協働でまちを知り、伝えていく取り組みを始めました。すでに学生さんたちは本を読んだり、館の展示を見たりしながら海苔やまちのことを調べ始めています。これからは実際にまちに出てインタビューをしたりする予定です。まちで彼らに会ったら気軽に話をし、あげてください。

若い大学生の目に大森のまちがどのように映り、彼らが何を伝えていこうとするのか、今からとても楽しみです。

この成果は右の講座をつうじて皆さんと共有したいと思います。ぜひご参加ください。(文)

### 連続講座「海苔のまちを伝える」

元海苔生産者のお話とまち歩きで「海苔のまち大森」を再発見します。

日時①「お話し」10月25日(土)13時～16時

②「まち歩き」11月22日(土)13時～16時

内容①海苔のビデオ番組上映と、平林義正氏(NPO法人海苔のふるさと会理事長)のお話し。

②東京海洋大学学生の案内で大森のまちを散策し、海苔づくりをしていた頃のなごりを探します。

参加費：100円(②の保険料)

対象：中学生以上・両日とも参加可能な方

定員：先着30名

申込：10月11日から電話または窓口にて

参加者  
募集中

## 今後の催しもの

### 「海苔簀(す)編み体験」

海苔つけに使う海苔すを編む体験をします。インテリアや海苔巻きに使うこともできます。

日時：10月12日(日)10～16時

対象：小学3年生以上どなたでも

参加費：無料 定員：先着20名

申込み：電話または窓口にて



### 「海苔つけ体験」

元海苔生産者のお話を聞きながら、海苔づくりを体験します。自分で作った海苔の味は格別ですよ！

なお、この日はふるさとの浜辺公園など周辺で「OTAふれあいフェスタ」(11/8～9)が開催されています。

日時：11月9日(日)10～12時

対象：どなたでも

参加費：無料 定員：50名(多数の場合抽選)

申込み：往復はがきに「住所、電話番号、参加者全員(4名まで)の氏名」を明記の上、右の宛先までお送りください。



### 創立臨時総会を開催

9月17日(水)

海苔のふるさと会は今年1月の設立以降、多数の方々に入会の申し込みをいただいていた。

このたび会員が一堂に顔を合わせる機会を設けようと、創立臨時総会を開催しました。

当日は約60名が出席し、終始和やかな雰囲気の中、会の趣旨や今後の活動を確認しました。その後、皆で館内の見学をしました。(文)



〒143-0025大田区南馬込5-11-13

大田区立郷土博物館 宛て

締め切り：10月17日必着

**第2回 ふるはま生き物探検隊**  
**「ボラからみるふるさとの浜辺」**  
**8月24日(日)実施**

ふるさとの浜辺にいる生き物をつうじて身の回りの環境について考えてもらう「ふるはま生き物探検隊」。講師は東京海洋大学の北見氏でした。

参加者は投網を使っ  
てみずから魚を採集した後、

講座室で魚を観察し、スケッチをしました。

参加者は自分でつかまえた魚をじっくりと観察することができ、充実した様子でした。(文)



**大森の海苔生産道具**  
**埼玉の博物館で展覧会**

国の重要有形民俗文化財に指定されている大田区の「大森及び周辺地域の海苔生産用具」の一部が、埼玉県の県立博物館で展示されます。

(開催中も、当館の展示はご覧いただけます。)

埼玉県立歴史と民俗の博物館

特別展「名もなき至宝

うけつがれし重要有形民俗文化財」

開催期間：10月7日～11月24日

休館日：月曜日 開館時間：9：00～16：30

観覧料：一般600円、高校・大学生300円(中学生以下と65歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料)

●特別展リレートーク10月26日(日)13：30～  
 大田区立郷土博物館の藤塚悦司学芸員が大森の海苔生産用具についてお話。電話にて受付、先着100名。  
 会場・問合せ先：埼玉県さいたま市大宮区高鼻町  
 4-219 Tel.048-645-8171

**体験学習会「海苔簀編み体験」**  
**9月28日(日)実施**

9月28日(日)に、「海苔簀(す)編み体験」を開催しました。

海苔簀は目立たない存在ですが、海苔づくりには重要な存在です。かつては夏から秋にかけて夜なべして作ったそうです。

当日は、親子連れから大人まで18組が挑戦し、無事に全員完成させることができました。また、大森の海苔づくりのお話を聞いたり、1か月ほどかかった材料のヨシの準備の映像を見たりしました。

海苔簀は、インテリアにしたり、海苔巻きに使ったりすることもできます。参加者の方々は、手作りの海苔簀を抱えて、笑顔で帰って行きました。

次回は、10月12日に開催します。(麻)



**企画**

**展コーナー**

**「思い出の風景・海苔づくりの海と町」**

**9月20日～11**

**月26日**



二階の企画展コーナーにおいて、かつての海苔づくりの様子を記録した写真を展示しています。

**＊ コラム**

ふるさと館には元海苔生産者の方がよくいらっしゃるのので、色々な話を聞くことができます。今回は海苔簀について聞いたことを書きます。海苔簀は約3年間使うことができるので、毎年3分の1ほどを新しい簀に変えていました。その年に新しく作った簀を「新簀(あらず)」、2年目の簀を「中簀(ちゅうず)」、3年目の一番古い簀を「古簀(ふるず)」と呼び、新簀は葎の油分が多いため海苔のはがれが良いのですが、古簀は油分が少なくはがれにくいため、自分で油を塗り、はがれを良くしたそうです。

皆さんも色々な話を聞きにふるさと館に来てください。(りょう)

**特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」4号**

平成20年10月9日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347





特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース 5号



## アサクサノリ生育観察実験始まる

昨年、約40年ぶりに復活した大森の海での海苔づくり。ふるさとの浜辺の沖合で今年も始まりました。

まず、10月8日に海苔網をはる支柱を立てました。その後11月12日には支柱に網を張り、そこに海苔の糸状体がついたカキ殻をぶら下げる作業が行われました。海苔がすでについている網をはって育てた昨年に比べると難しい方法となりますが、現在海苔の胞子がついたかどうか毎日観察をしているところです。どんどん寒くなるこれからが海苔が育つ季節です。今年も海苔が採れるといいですね。

ふるさとの浜辺に行くと、沖の干潟の手前に支柱が立っているのを見ることができます。収穫した海苔は子供たちの海苔つけ体験に使われる予定です。

なお、実施は「アサクサノリ生育観察実行委員会」（海苔のふるさと会、大森ふるさとの浜辺を育てる会、大森本場乾海苔問屋協同組合によって構成）が行っています。（文）



11月9日（日）に、今期初めての海苔つけ体験を開催しました。参加者は、元生産者の方々から寒い海で海苔を採った話を聞き、海苔づくりを行いました。

乾した海苔は、参加者に送り焼き海苔にして味わってもらいました。

海苔つけ体験はとても人気がありますので、ぜひお早目にご応募ください。

### ■海苔つけ体験 今後の予定■

日時	お申し込み開始日
12月7日（日）	11月21日（金）
1月18日（日）	12月21日（日）
2月15日（日）	1月11日（日）
3月15日（日）	2月21日（土）

お申し込み：午前9時から電話または窓口にて受付  
対象：どなたでも 定員：先着50名

海苔つけ体験  
お申込みはお早めに

また、この他に月二回ほど、郷土学習のために区内小学校の海苔つけ体験を受け入れていきます。本物の道具を見学し、体験をする学習は、子供たちにとっても好評です。

（まこ）



協力者の方に、公園側の門の前へ昔ながらの海苔乾し場を建ててもらいました。早速、小学校の体験で作った海苔を干したところ、かつての大森の風景がよみがえったようでした。この乾し場は、冬の間設置し、体験学習などで作った海苔を乾すために使います。（まこ）

よみがえる  
大森の風景



## 大田ふれあいフェスタ2008

11月の8日・9日に大田ふれあいフェスタが行われ、ふるさと館は「ふるさとの浜辺エリア」として今年から参加しました。

2日間とも「大森橋本はやし保存会」の軽快なお囃子で始まり、1日目は海苔の即売会やジャンボ海苔巻き大会が、2日目には「大森甚句保存会」による踊りや海苔つけ体験、海苔焼き機の稼働実演や室内演奏などが行われました。最後は大田区職員・有志で構成される「大田区役所 くすのき連」他2連の華麗な踊りで、フェスタを締めくくりました。(りょう)



### 報告 海苔のまちを伝える

10月25日(土)に元海苔生産者平林義正氏のお話、11月22日(土)に東京海洋大学生の案内によるまち歩きと、2回にわたって海苔のまち大森を再発見しようという連続講座「海苔のまちを伝える」を開催しました。

1回目のお話しでは、昭和初期の海苔づくりの様子を記録したVTRを見たあと、古い写真や地図を交えながら当時の暮らしぶりやまちの移り変わりといった貴重なお話を聞くことができました。

2回目のまち歩きでは、水圏環境コミュニケーション学実習という授業で大森のまちを調べてきた東京海洋大学生が参加者を案内しました。地域の方の貴重なお話をみんなで聞いたり、若い人ならではのユニークなまちの見方に感心したりと、楽しみながらいろいろな発見をすることができました。(文)



### ＊ コラム

アサクサノリ生育で船上での作業や、海苔干し場を建てるときなど、元海苔生産者の方々が力を合わせて作業する場面では、大森地域の言葉で話しているのを耳にしました。

「テメーガッテじゃ、モヤッテもらえねえからよう(自分勝手では、協力し合って貰えない)」海苔の仕事は共同で行う作業も多く、モヤウ＝協力し合うのは、とても大切なことだったそうです。

独特の言葉使いや人の繋がりなど、形に残らない大切なものも、伝えていけたらいいなと思います。(まこ)

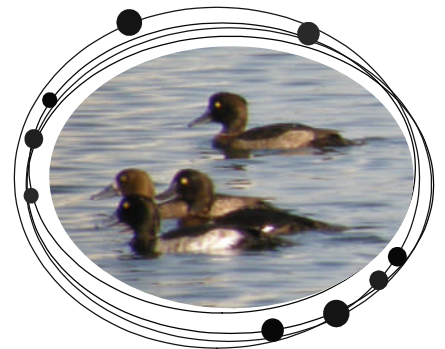
## ふるはま冬の生き物観察

～冬の来客、水鳥～

冬になると、シベリア方面からカモなどの渡り鳥がたくさん日本にやってきます。ふるはまでもいろいろな種類のカモが見られます。

沖合に目を向けると、長い尾をまっすぐ立てて首から頭にかけて白いマフラーを巻いたような「オナガガモ」。まっ白いコートに黒い帽子、そしてポニーテールみたいに黒い髪をなびかせている「キンクロハジロ」。そのほかにもホシハジロ、ヒドリガモ、スズガモなどが羽を休めています。砂浜や空には、白い体にくちばしと脚の赤が目立つユリカモメもよく見られます。

冬でも鳥がたくさんいるふるはまにぜひ足をのびしてみてください。まだまだ他にも北からのお客さんが見られる‘カモ’しれません。(渡辺)



### おススメの本

『昭和30年代の大田区 ～蘇る青春の昭和』

企画：東京都書店商業組合大田支部 1,900円+税  
(発行日：2008年11月/発行：三冬社)

大田区育ちの団塊世代である私にとって心温まる本が出ました。丸いちゃぶ台を囲んだ今は亡き父母の笑顔・おかつば頭・いがぐり坊主、子どもの頃を思い出します。平林理事長のコラムは「大森に海苔漁があった頃」。いつもふるさと館に海苔つけの指導にきて下さる協力者のみなさんが、今は盛んと浜で海苔漁をしている姿があります。

古きをたずねて新しきを知る。ふるさと館の大切な1冊となりました。(信田)

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」5号

平成20年12月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報  
**大森 海苔のふるさと館 ニュース 6号**

## 学校教育との連携

小学校から大学まで

団体見学、体験、総合学習、奉仕体験など

当館は、区内小中学校をはじめ、多くの学校が利用しています。また、地域の教育機関とも連携し、さまざまな活用を図っています。ここでは、普段目に触れることの少ない学校教育との連携をご紹介します。



### 団体見学

当館では、区内の学校はもちろん、区外も含めてこれまで31校の学校にご利用いただいています。

主な利用内容は、海苔のビデオの観賞、展示室での展示解説、展示の見学などです。

展示室には、実際に昔使っていた道具が展示してあります。また、道具の使い方を体験できるコーナーや触れる展示もあり、実際に見て触って学ぶことができます。

児童たちは、熱心にメモや絵を描いたり、実物の



船に見入ったりしています。実物に接し、多くのことを学んでいるようです。

(りょう)



### 奉仕体験・職場体験

平成20年の夏休みに、東京都立美原高等学校の奉仕体験の受入れを行いました。

1年生が2名ずつ館に来て、来館者へのあいさつや説明、催し物の準備や後片付けを行いました。館に来る幅広い年齢層の人とふれあったり、裏方の仕事をすることができ、良い体験になったようです。また、2月には中学生の職場体験の受入れも予定しています。

地域文化の継承にとっても中高生にとっても有意義な受入れは、今後も続けていきたいと考えています。(文)



### 海苔つけ体験

11月より、郷土学習のために区立の学校を対象に海苔つけ体験を実施しています。

元海苔生産者の体験談の後、冷たい水に入れ、ヌルヌルする生海苔の感触を確かめ、驚いたり

感心したりしながら楽しそうに体験をしています。乾し海苔は、後日学校へ届けられます。

体験は1クラス1時間程度、無料です。また、学校への道具の貸し出しや相談にも応じております。

地域の方と交流し、五感を使って体験をすることは、子どもたちの学習にさまざまな効果が期待できます。(まこ)



### さまざまな利用

当館では、学校教育の希望に応じた対応をしています。これまでの事例を紹介しましょう。

小学生の地域学習でビデオ撮影。愛知県や宮城県の中学生による、修学旅行の調べ学習。高校の映像授業の撮影に協力。栄養の専門学校が海苔について調べ、学園祭で成果発表。大学生の卒業論文の事例調査など。

当館は、利用者のために存在しています。ぜひ、この館をさまざまな学びにご活用ください。(まこ)

<http://norinoyakata.web.fc2.com/>

「大森 海苔のふるさと館」のホームページができました！催し物の最新情報などもチェックできます。



ふるはまは、ユリカモメやカモなどの鳥たちや浜を愛する人たちが冬でも賑やかです。現在浜近くと沖合いには海苔づくりの棒が立っています。浜近くでは棒の間に海苔網が張ってあるのを見ることができます。ここで育てられた海苔は近隣の小学生の学習に活用される予定です。

また、昨年11月には環境グループ「Blue Life」によってアマモの種まきが行われました。アマモは海藻の一種で、魚のすむ場所になります。

こういった取り組みにより生き物がいっぱいになるといいですね。(文)



## 海苔つけ体験 報告

12月7日と1月18日、海苔つけ体験を開催しました。人気の催しもので、毎回、申込初日の3時間程で満員になってしまいます。ご参加いただけない方々には、たいへん申し訳なく思っています。

当日は、館の活動に関心を持つ海苔の未経験者の方が、海苔つけ指導の見習いとしてお手伝いしてくれました。今後は、活動の輪を広げるための支援にも力を注ぎ、館を盛り上げていきたいと考えています。

こうした活動に関心のある方は、ご連絡をお待ちしております。(まこ)

## ＊ コラム

海苔を採っていたころは、食事をする間も惜しいぐらい忙しかったそうです。そのため海苔乾し場のあいているところで野菜を育て、味噌汁の具にして食べていたという話を聞きました。

少しでもその頃の情景を再現できないかと思い、館の入り口では菜の花と小松菜を育てています。暦の上ではまもなく立春を迎えますが、まだまだ寒い日があります。菜の花の葉っぱの間にはかわいらしいつぼみが見え、気の早いものは開花してきました。寒さの中にも春が確実に近づいてきていることを感じます。(文)

雑誌

テレビ

ラジオ

### 「オーシャンライフ」2月号(2009.2オーシャンライフ発行)

海、海辺、漁師の民俗シリーズで、当館および協力者の方々が取材を受けました。

かつての大森の海苔の養殖全盛時代の思い出話や、記者のなかなかうまくいかない海苔つけ体験談や、2年前から始まったアサクサノリ生育観察での海苔採り風景などが、よくまとまった記事となって掲載されています。

その他にも出版物、テレビ、ラジオなど様々なメディアに取り上げていただいております。出版物は、当館のライブラリーでご覧いただけます。

### ■主なメディア■

「散歩の達人」2008年6月号(交通新聞社)

「東京人」2008年8月号(都市出版社発行)

「週刊文春」2008年11月13日号

4/28 ニッポン放送「テリー伊藤のノッテケラジオ」

10/25 NHK BS2「双方向クイズ 日本力」

大田ケーブルテレビ

2/3予定 テレビ朝日9:55～「ちい散歩」

新設

## 季節の絵本コーナー

海、砂浜、広い空、原っぱなど、館の周りには意外なほど豊かな自然環境があります。

四季折々に魅力的な表情を見せるこれらの自然に目を向けてほしいと思い、1階ライブラリーに季節の絵本コーナーを設けました。大森東図書館の協力で、どんぐり・落ち葉・風など季節に応じたテーマの絵本を揃えています。

1か月ごとに内容が変わりますので、ぜひご覧下さい。(文)



### 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」6号

平成21年2月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333

FAX 03-5471-0347